町屋

村上市中心部の通りには、江戸時代（1603-1867）から商人や職人が住み、働いてきた伝統的な町家が点在している。現在も多くの町家が店舗や個人住宅として使用されており、一部は年間を通して見学が可能だ。

長続きの物件

典型的な町家は 2 階建ての長い建物で、前面が狭く、通りに面している。これは江戸時代の固定資産税が間口の広さによって決められていたことに由来する。建物の前部分には土間の玄関と店主が座る高床スペースに分かれた店舗スペースがある。狭い土間の通路は店から家の中を通り、居間を抜けて裏庭へと続いている。

村上でよく見られる町家のスタイルで、店の向こうの最初の部屋は居間で、囲炉裏を囲んで家族が集まって食事をした。この部屋には神棚や仏壇が置かれ、多くの家では屋根裏部屋への階段もある。奥には寝室、浴室、物置がある。

町家は通常、隣り合って建てられているため、側面に窓はない。その代わりに、自然光を取り入れ、火災のリスクがある火を使った照明の必要性を減らすために、天窓のある高い天井が

特徴であることが多い。

町家めぐり

村上のほとんどの町家は中心部の町家通りに面して並んでいる。2004 年以来、地元の商店主や住民で構成される町家保存会が、伝統的な家屋を保存し、元の姿に戻す活動を行っている。50 軒以上の町家は、春には雛人形が飾られ、秋には屏風が飾られ、これらの時期に一般公開されている。

鮭店や菓子店、酒店など一年中見学できる町屋もある。また、近くには「黒塀通り」があり、伝統的なスタイルの黒塀が立ち並び、いくつかの寺院を通り抜ける。